

## 6月の窓

「5月の窓」で、本校和風庭園の「アメリカハナミズキ」を紹介したところ、私の知り合いの方からメールをいただきました。この方は、昭和58年から平成5年まで山形東高校に勤務された旧職員で、私もたいへんお世話になった方でもあります。そのメールによると、このアメリカハナミズキは、昭和58年にアメリカのカリフォルニアからの留学生として本校に在籍したテッド・ジョンソン君が、翌年学校を去る時に記念して植えられたものだそうです。メールには、昭和58年度の「生徒会雑誌」に彼のインタビュー記事が載っているとありましたので、校長室の生徒会雑誌を見てみると、7ページにわたる特集記事がありました。その中で、一番印象に残っている学校行事を聞かれ、彼は「山東祭」と答えていました。その理由は「みんなと一緒に行事をしている時、僕は留学生ではなく山東生になる。それがとてもうれしい。山東祭の時、着物を着て大根メシを売ったのもとてもいい思い出。」と答えていました。なぜ大根メシなのか調べてみると、この年はNHK連続テレビ小説「おしん」が放送された年で、山東祭でも「おしん」の企画があったようでした。たまたま書いた「アメリカハナミズキ」から、いろんなことを知ることができ、メールをくださった先生にもお礼を申し上げたところです。

6月と言えば衣替えの時期ですが、5月末から最高気温が30度以上の真夏日が続き、本校の近くの高校生は、6月前に夏服で登校する生徒もいました。季節の変わり目としての更衣（ころもがえ）もいいかもしれませんが、日本全国同じ日でなくても、いいような気もします。もっとも、ある本によると、旧暦時代は4月1日に綿入れを脱いで袷（あわせ）に替えたのを更衣としていたそうで、さらに5月5日には、袷を帷子（かたびら）に替えたとのことでした。芭蕉も、更衣の句を詠んでいます。

### 一ツぬひで後ろにおひ負ぬ衣がへ……芭蕉

5月の行事等を少し紹介します。

5月2日、恒例の新入生歓迎駅伝大会が馬見ヶ崎河川敷コースで開催されました。昨年は、2年生（現在の3年生）が1位から3位まで独占し、今年もクラス替えはあったものの、3年生が優勝の大本命と見られていました。3年1組が順調に1位でタスキをつないでいきましたが、終盤2年5組と2年4組が追い上げ、2年5組が優勝、4組が2位、3年1組が3位となりました。優勝は逃したものの、3年生

の全クラスが9位以内に入り、その力を示してくれました。新入生歓迎と言っても、入学したばかりの1年生にとっては厳しいレースとなりましたが、最後まであきらめることなく、クラスの応援に応じて全クラスがタスキをつないでゴールすることができました。写真は、英語の先生からALT（外国語指導助手）の先生にタスキをつなぐ職員チームと、優勝した2年5組がゴールしたところです。



本校では、国際協力NGOジョイセフの取組に賛同して、アフガニスタンにランドセルを贈る活動に2年前から取り組んでいます。ジョイセフを通して、アフガニスタンの活動団体の幹部が本校で謝意を伝えるための講演会を行いたいという依頼がありました。16日（金）にババカルキル事務局長とジョイセフの通訳が来校し、全校生に、アフガニスタンの教育の現状や贈られたランドセルの使い道などを話していただきました。ババカルキルさんは前日日本に到着して、この日に山形に来たとのことでしたが、その疲れもみせず映像を用いながら英語で話をしてくださいました。最初の写真は、10年間でどれくら子どもたちがランドセルを受け取ったかを説明しているところです。講演会終了後は、本校生徒会役員とこの取組に関心を持っている近隣の高校の生徒会役員を交えての座談会を行いました。次の写真は、その座談会の様子です。



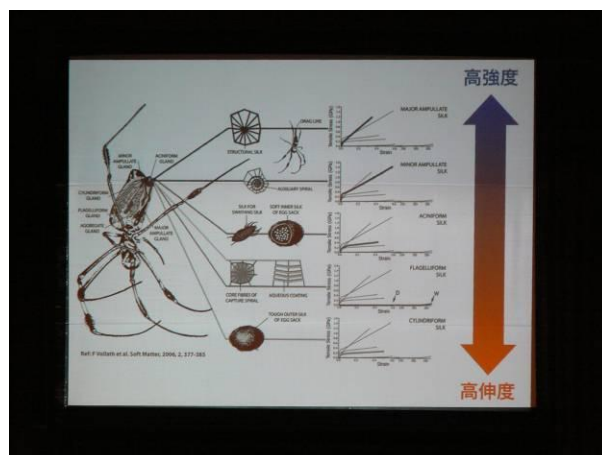
18日（日）には、山形県と山形県教育委員会主催の「未来を拓く若者のための起業チャレンジ講演会」が、本校講堂でありました。講師は、世界最先端のバイオ研究に取り組む「慶応義塾大学先端生命研究所」の富田勝所長と、人工合成クモ糸の開発で注目されている「スパイバー株式会社」の関山和秀社長の2人でした。この講演会は、スパイバーの関山社長の話を県内の高校生にぜひ聞かせたいという本校卒業生の熱い思いから実現したものでした。その卒業生は90歳になる方で、私もよく知っている方ですが、社長だけでなく、恩師にあたる富田所長にも来ていただくことになりました。さらに、その卒業生は県や県教委にも働きかけ、県及び県教委主催の事業となり、本校の講堂を会場としてお貸しすることになりました。当日は日曜日でしたが、市内の高校からも多くの生徒さんが来てくれただけでなく、保護者や一般の方も来てくださいました。

富田社長は、大学から鶴岡に新しい研究所を作るという指令があった時に、周りの声は「一軍は東京にいる」という冷ややかな反応だったことを紹介し、自分では「世界が鶴岡に振り向くような町にしよう」という思いで鶴岡に来たと語ってくださいました。そして現在では「鶴岡に世界最高の技術がある」とも言われるようになりました。最後に、今の日本は財政破たん状態にあるが、「日本を立て直すのは君たちの世代だ」と高校生への期待を話されました。

関山社長は、高校生の頃はあまり勉強しない生徒だったそうですが、富田先生の話聞いてから、大学では絶対彼のもとで学びたいと思い、その時から必死で勉強するようになったそうです。人工クモの研究を始めたきっかけは「世界一強い虫は？」と仲間と飲みながら話したことで、いろんなクモの糸の話や、映像を用いてお話してくださいました。関山社長はあるインタビューで「ライバルは？」と聞かれ「アメリカ軍とNASA」と答えて笑われたそうですが、このクモ糸がいろんな分野で実用化されれば、本当に両者がライバルとなる日が来るかもしれません。

**日本を立て直すのは  
君らの世代だ**

自己保身・安定志向は淘汰され、だ  
でもできる仕事は新興国へ  
資源のない日本、海外になにを売る  
すごく良いものを高く／知的産業





5月には、一部の競技で一足早く県高校総合体育大会が開催され、陸上競技では男子が400M（メートル）と1600メートルリレーで東北大会へ出場することになりました。個人でも、男女あわせて5種目で6位以内となり、東北大会への出場権を得ました。また、テニスの男子団体も2位となり、東北大会へ出場することが決まりました。文化部では、全国高等学校総合文化祭への出場権を懸けた県高校将棋選手権大会の男子団体戦で、2年ぶりの優勝を果たし、囲碁の山形県予選会でも男子が団体・個人とも優勝という成績で、ともに茨城県で開催される全国高等学校総合文化祭へ出場することになりました。

最後に、今回は、名所・旧跡ではありませんが、本校の近くで毎年5月に開催される植木市を紹介します。「植木市」とも「薬師祭」とも言われることがありますが、正しい名称は「薬師祭植木市」だそうです。薬師祭は、山形市薬師町にある国分寺薬師堂の祭礼で、現在は5月8日から10日までの3日間行われます。一方植木市は、熊本市・大阪市の植木市と並び日本三大植木市の一つと呼ばれ、薬師公園、薬師町通り、新築西通りなどに400店以上もの植木市と露店が並ぶそうです。この植木市の由来については、いろんな説があるようですが、山形城主最上義光公時代に大火があり、大火で焼失した城下に緑を取り戻そうとして付近の農民たちに呼びかけて開かせたのが始まりとも伝えられています。そして、植木市と国分寺薬師堂の祭礼とが一緒になって、「薬師祭植木市」と呼ばれるようになりました。

写真は、本校の西側にある新築西通りに出ていたお店で、店の人に聞いたところ、新潟から毎年来ているとのことでした。次の写真のように、ハート型のおもしろいものがありました

